

「恋愛様式」の変化と晩婚化

山田昌弘（東京学芸大学）

1 恋愛様式の根本的変動（1980年代）

1980年以前に青春時代を送った人 1955年生まれ以前

1980年以降に青春時代を送った（ている）人 1965年生まれ以降

恋愛経験に大きなギャップがある。

今 恋人と結婚しなくても非難されない、セックス関係があっても結婚しなくてもよい

カップル意識調査（学術振興会科研費 2004年実施 東京、大阪 1041サンプル）
恋人として交際した相手の人数（%）

	なし	1人	2 - 3人	4 - 5人	6人以上	(N)
1945 - 55年生	26.6	16.5	39.5	13.8	3.6	(334)
56 - 65年生	15.8	10.9	42.5	22.6	8.3	(266)
66 - 75年生	7.8	11.3	39.0	25.4	16.5	(346)

結婚前に性的な関係を持つてはいけない（%）

	そう思う	そう思わない	(N)
1945 - 55年生	48.9	51.1	(366)
56 - 65年生	27.0	73.0	(296)
66 - 75年生	14.0	86.0	(360)

* 中高年の方は、自分の経験や価値観で今の恋愛状況を解釈してはいけない

2. 高度成長期の恋愛の特徴

- (1) 恋愛（異性との交際）は結婚によって正当化された（恋愛結婚イデオロギー）
つきあったら結婚するのが当然とされた（結婚を前提としないで交際 - 遊び人）
結婚したいという気持 = 正しい恋愛の形
- (2) 交際機会は限定されていた（出会いの場が少ない）
出会った相手が素敵に見えた（身近な異性の数が少ない）
競争相手は結婚して早めに退出（結婚した女性は目の前から消える）
魅力の性役割分業（男性 - 経済力、女性 - 家事能力）
- (3) 恋愛感情なくても結婚出来た
妥協のしがいがあった（経済的安定 - 男性の収入の増大が期待出来た）
恋愛がなくても恥ずかしくなかった（恋愛 - あこがれ）

3 . 現代の恋愛状況の変化 (1980 年頃から)

(1) 恋愛と結婚の緩やかな分離

結婚しなくても恋愛 (セックスを含んだ男女関係) を楽しめる

結婚のきっかけがなくなる

つき合っているからといって、それが結婚につながるとは限らない

(2) 交際機会の増大 (男女が出会う場の増大)

ミスマッチの一般化 (好きな人には断られ、どうでもいい人から告白される)

もっといい人がいるかもしれないシンドローム (経済的、感情的)

魅力の二極化 (もてる人はますますもて、もてない人は放置される)

(もてる人は退出してくれない、魅力ない人とつき合おうとする人はいない)

(男性の経済力の二極化)

(3) 妥協すらできない経済、感情状況

結婚しても人並みの生活すら期待出来ない (雇用の不安定化)

適当な人に出会うまで、とりあえず待つことができる (パラサイト化)

恋愛幻想の強まり (周りの人が恋愛結婚しているのに、私にないのはおかしい)

* 未婚の異性がまわりにいても、カップルができるとは限らない

* カップルができて結婚する (できる) とは限らない

* 年はいやおうなしに取る (現在では女性にとってとても不利)

付録 出来ちゃった婚の増大 妊娠くらいしか結婚のきっかけがない
占いの氾濫 素敵な人と出会えるという期待の肥大化

4 . 対策は、

(1)(2)の傾向を逆転させることは無理 「恋愛結婚」を見直す必要有り

結婚は生活と割り切り、恋愛は結婚外で満足する

恋愛感情なくても、家族生活はできる

(3) 経済的基盤を整えれば、妥協しがいがでてる

参考文献 山田昌弘 1996 『結婚の社会学』丸善 - 品切れ中
服籐、山田、吉野編 2004 『恋愛・性愛』早稲田大学出版
A E R A 編集部 2001 『恋愛学のみかた』朝日新聞社